

2. 東北（地域別調査機関：公益財団法人東北活性化研究センター）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の状態判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連 (東北)	◎	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・来客数は3か月前比105%と良くなっている。買上点数も同102%と伸びている。
	◎	家電量販店（従業員）	販売量の動き	・2027年からの新たな省エネ基準導入を前にエアコンが売れている。県による省エネ家電の購入補助も好調の要因となっている。
	○	一般小売店〔茶〕（経営者）	販売量の動き	・イベントに出店し、来客数、販売量共に好調であった。
	○	一般小売店〔書籍〕（営業担当）	競争相手の様子	・景気はやや良いが、同業他社の事業縮小によるものであり、業界全体のパイが拡大しているわけではない。
	○	百貨店（企画担当）	単価の動き	・ラグジュアリーブランドの値上げによる駆け込み需要とインバウンド売上の伸長により、客単価が上がっている。
	○	百貨店（経営者）	販売量の動き	・ゴールデンウィーク後は気候も良くなり、県外の客が少しずつ増えている。株高の傾向があるため、高額商品はジュエリー、ウオッチを中心に堅調に推移している。日傘やサンングラスなどの季節商材も前倒しで動き始めている。
	○	百貨店（経営者）	来客数の動き	・2月以降、来客数は着実に増加している。
	○	スーパー（店長）	販売量の動き	・生鮮食品の売行きは良く、気温の上昇により飲料も売れている。また、自治体が発行する商品券の効果も大きい。
	○	スーパー（店舗運営）	来客数の動き	・2～3か月前と比較すると来客数は微増している。特にゴールデンウィーク期間の来客数は前年比では良好であった。
	○	コンビニ（経営者）	販売量の動き	・前年比では売上が105%、客単価は102%と好調に推移している。
	○	家電量販店（従業員）	販売量の動き	・ゴールデンウィーク以降、気温の高い日が続く、エアコンを中心に夏物商材の販売量が増加している。来客数や単価も上昇している。一方で、テレビや調理家電の販売が低迷しているため、全体としてはやや良くなっている状況にある。
	○	乗用車販売店（店長）	販売量の動き	・原材料価格の高騰による車両価格への転嫁が進んでいる影響もあり、新車販売台数は前年比9割程度と伸び悩んでいる。一方、新車価格の上昇を背景に中古車市場は堅調で、販売台数が例年の2倍以上の店舗もみられる。収益構造の変化が進んでいる。
	○	都市型ホテル（支配人）	来客数の動き	・インバウンドの予約が好調である。
	○	テーマパーク（職員）	来客数の動き	・来客数は目標値に対し、3か月前は106.4%だったが、今月は108.1%と上向いている。
	○	観光名所（職員）	来客数の動き	・来客数は1～6日が前年比140%、7日以降は前年並みとなっている。ゴールデンウィークは気温も高く、ファミリー層の来場が多かった。
	□	商店街（代表者）	来客数の動き	・物価高騰による消費マインドの低下が懸念されたが、来客数は3か月前と同水準で推移している。
	□	一般小売店〔寝具〕（経営者）	販売量の動き	・二次製品も仕立ての注文も相変わらず動きは鈍い。
	□	一般小売店〔酒〕（経営者）	お客様の様子	・景気が停滞するなかで物価上昇が続いており、スタグフレーションのような状況が強まっている。家計への負担が重くのしかかり、外食やレジャーなどの支出が削られている。
	□	百貨店（従業員）	お客様の様子	・生活防衛意識が高まっており、よく吟味した上で必要最低限の購入にとどめる購買行動がみられる。

<input type="checkbox"/>	スーパー（経営者）	単価の動き	・5月の平均1品単価は前年比2%強の上昇となっている。買上点数が前年を若干割り込んでいるが、来客数が前年並みのため、売上は前年超えが続いている。ただし、原価や経費のほぼ全てが上昇しており、商品への価格転嫁が十分に進んでいないため、営業利益の圧迫は避けられない。購買行動は余分な商品の購入が減り、低単価商品の選択が更に進んでいる。
<input type="checkbox"/>	スーパー（店長）	販売量の動き	・現状、景気回復の材料がない。
<input type="checkbox"/>	スーパー（店長）	お客様の様子	・商品価格の上昇が続くなか、日替り特売の販売数が多くなり、特売比率が上がっている。さらに、生鮮品の値引き時間に合わせて来店し、かごの中身が値引き品で一杯になっている客が以前より増えている。特に若い年代の客で多くみられる。
<input type="checkbox"/>	スーパー（店長）	お客様の様子	・来客数は前年同期比で下回っているが、1品単価や買上点数などは上昇傾向にある。客は買物の回数を減らし、このような買物をしている。
<input type="checkbox"/>	スーパー（店長）	販売量の動き	・買上点数に変化がみられない。
<input type="checkbox"/>	スーパー（商品担当）	販売量の動き	・ゴールデンウィークや気温上昇により販売点数は増加したが、一時的なものである。景気に変化はみられない。
<input type="checkbox"/>	コンビニ（経営者）	単価の動き	・物価の上昇が続いている。地方は車社会のため、賃金が上がらないなか、ガソリン価格の上昇が家計の負担となり、購買が抑制されている。厳しい状況が続いている。
<input type="checkbox"/>	コンビニ（経営者）	それ以外	・物価上昇によりコンビニで買物をする人が減っており、経費の増加に売上が追い付いていない。
<input type="checkbox"/>	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・商品値上げの影響により売上は伸びているが、来客数は減少している。
<input type="checkbox"/>	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・工事関連の企業から作業服等の受注が増加している。しかし、店頭販売は熊の出没により客足が激減し、売上が減少している。
<input type="checkbox"/>	衣料品専門店（総務担当）	来客数の動き	・食品の価格高騰が続いている。また、一時期下がったガソリン価格が中東情勢の影響により再び上昇していることから、客の節約志向が強まっている。
<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・価格高騰により全ての商品が購入しにくい状況にあるが、客にも慣れがみられる。また、他の中古車販売店や整備工場でも、部品やオイル等の仕入れが難しくなっている。ディーラーでは、先行きに懸念はあるものの、現時点では入庫遅れなどは生じていない。
<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・自動車税環境性能割が廃止されたことを受け、先送りしていた個人客の登録が幾分増えている。
<input type="checkbox"/>	その他専門店 [白衣・ユニフォーム]（経営者）	販売量の動き	・販売件数が減っている。販売先の倒産、廃業、縮小などに加え、労働人口減少の影響もある。また、競争激化の影響も大きい。空調服など熱中症対策のグッズは好調と聞くと、単価が高いため導入にちゅうちょしている企業も多い。
<input type="checkbox"/>	高級レストラン（支配人）	来客数の動き	・来客数が少ない状態が長期にわたり続いており、回復の兆しがみえない。
<input type="checkbox"/>	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・ゴールデンウィーク明けの来客数が非常に悪い。財布のひもが固く、外食を控える傾向が顕著になっている。
<input type="checkbox"/>	一般レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・3か月前比、前年比のいずれでも来客数に変化はない。
<input type="checkbox"/>	観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・来客数は前年並みである。
<input type="checkbox"/>	都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・中東情勢の影響もありインバウンドは苦戦していたが、ゴールデンウィークの大型連休に加え、当地でイベントが多数あったことから、来客数は前年と同じ動きになっている。
<input type="checkbox"/>	通信会社（営業担当）	お客様の様子	・客の設備投資意欲に変化がみられない。
<input type="checkbox"/>	通信会社（営業担当）	来客数の動き	・例年並みの実績となっている。

□	観光名所（職員）	来客数の動き	・2～3か月前から来客数は微増が続いている。ここ半年、予約状況は前年とほぼ変わらず、振り客が若干増えている状況が続いている。
□	遊園地（経営者）	来客数の動き	・低調だった前年は上回っているものの、前々年に届くかは微妙である。3月からの入園料値上げの影響は特にみられない。
□	ゴルフ場（支配人）	お客様の様子	・来場者数の推移は前年と変わらない。
□	美容室（経営者）	来客数の動き	・今月もパーマや毛染めなどで定期的に来店する客が訪れている。
□	その他サービス 〔自動車整備業〕（経営者）	それ以外	・潤滑油や作動油、塗料、シンナーなどの品不足に加え、入荷の見通しも立たないことから、受注した作業を完遂できず、断ることが多発しており、業績に大きな影響が出ている。
□	その他住宅〔リフォーム〕（従業員）	販売量の動き	・エアコンの省エネ基準変更前の交換が急増している。生活必需品の値上がりに伴う節約志向の高まりにより、コンロ、給湯器の交換及びリフォーム工事は減っている。
▲	一般小売店〔酒〕（経営者）	来客数の動き	・ゴールデンウィーク後は客足が落ちている。
▲	一般小売店〔医薬品〕（経営者）	来客数の動き	・今月はマラソン大会や祭りなど多くの人が集まる催しがあった。しかし、近隣のコンビニ店員の話では、来店してもおにぎりや水を買うだけであり、売上にはそれほど貢献していないとのことである。
▲	一般小売店〔医薬品〕（経営者）	お客様の様子	・客単価は変わらないが来客数が減少しており、売上に影響している。
▲	スーパー（業務担当）	お客様の様子	・買い方に勢いが無い。価格を意識して必要な物のみ購入しており、販売点数が増えない。
▲	スーパー（販促担当）	単価の動き	・商品の仕入単価が3か月前と比べて上昇しており、販売価格に転嫁せざるを得ない状況にある。客単価は前年比103%と上昇しているが、客の所得が増えていなければ、景気は良くなっているとはいえない。
▲	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・ゴールデンウィークがあったため、来客数は前年比95%と大幅に減少している。人の動きが悪くなっている。
▲	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・来客数、販売量共に微減傾向である。商品価格の上昇により、販売単価は上昇しているが、来客数の減少をカバーするには至らない。
▲	コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・客単価の伸びが落ち着き、売上に影響が出ている。
▲	コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・前年の大型施策の裏年に当たり、販売量は前年比では低下している。
▲	コンビニ（店長）	お客様の様子	・自動車税や固定資産税の支払を目的とした来店があり、来客数は落ちていないものの、売上は減少している。
▲	衣料品専門店（経営者）	単価の動き	・来客数の減少を客単価上昇でカバーできていない。
▲	衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・近隣の競合店が完全閉店のため大規模なセールを実施しており、大きな影響を受けている。来客数は前年比3割減少、スーツに関しては6割減少している。
▲	衣料品専門店（店員）	来客数の動き	・中旬に少し冷え込んでおり、気温が上がらないことから春物への移行が進まず、販売不振になっている。特にカジュアル系の中軽衣料が苦戦している。
▲	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・新規来客数の減少に比例して販売数が減少している。
▲	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・金利が上昇し、残価クレジットの附帯率が低下傾向にある。これにより、数年後の代替率も鈍くなるとみられる。
▲	住関連専門店（経営者）	販売量の動き	・オーダーメイドの受注生産をしているが、受注量が減少しており、景気は悪くなっている。
▲	住関連専門店（インテリアコーディネーター）	販売量の動き	・マンション価格の高騰もあり、インテリアや家電の購入には踏み切れない様子がみられる。今後の価格上昇と資材不足を見越して購入を決める客も一部にみられるものの、全体としては控え気味である。

▲	その他専門店 [酒] (経営者)	単価の動き	・値上げは少し落ち着いたが、値上げ後の単価が消費行動に影響を及ぼしている。米関連の商品は見切り品でも売れ残っていることから、消費者の米離れが加速していることがうかがえる。
▲	その他専門店 [靴] (経営者)	販売量の動き	・自治体発行の商品券利用に期待しているが、生活必需品から利用されるため、靴や履物を購入するための利用は少ない。
▲	その他専門店 [ガソリンスタンド] (営業担当)	販売量の動き	・中東情勢の影響による出荷制限のため、商品流通の乱れが続いており、販売量は前年割れとなっている。
▲	その他専門店 [ガソリンスタンド] (営業担当)	販売量の動き	・主燃料に加え潤滑油なども出荷制限されており、販売量が減少している。
▲	その他小売 [ショッピングセンター] (統括)	来客数の動き	・売上は前年比101%、来客数は同92%である。各店舗の買上客数の減少に歯止めがかからず、苦しい状況が続いている。物価高により1品単価が上昇しており、客単価は前年比109%、売上も前年を達成している。ゴールデンウィークがあり外出機会が増加したため、飲食や土産品は好調な推移となっている。一方で、生鮮総菜売場ではこれまでに余りみられなかった夕方のピークタイムにおける来客数の減少が散見される。こうした動きは家計収支の調整によるものとみられ、働き盛りの世代においても節約志向の高まりがうかがえる。
▲	一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・例年であればゴールデンウィーク後はそれほど悪くないが、今年は予約数、来客数共に悪い。
▲	一般レストラン (経営者)	単価の動き	・来客数は堅調だが、客単価が下がっている。
▲	観光型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・中東情勢への不安感や熊出没のニュースにより、来客数が少ない。
▲	観光型旅館 (経営者)	来客数の動き	・ゴールデンウィークを除き例年落ち込む時期であるが、経済不安の影響もあり、前年と比べて来客数の動きが悪い。
▲	旅行代理店 (従業員)	販売量の動き	・円安及び燃油サーチャージの値上げ、中東情勢の影響により、海外渡航が敬遠されている。
▲	タクシー運転手	単価の動き	・買物や通院で利用する人は多い。
▲	通信会社 (経営者)	お客様の様子	・放送サービスの加入者数が減少している。特に今年はゴールデンウィークが長かった影響もあり、新規獲得に向けた営業活動ができなかった。また、家電量販店の窓口への来客も減少したため、転入に伴う通信サービスや電話サービスへの新規加入申込みも減少している。
▲	美容室 (経営者)	単価の動き	・美容施術において、単価の低い施術にシフトする動きがみられ、客単価が低下している。
▲	その他サービス [寮管理] (管理人)	お客様の様子	・中東情勢の影響により調味料など食品が値上がりしており、コーヒーなどは内容量が少なくなっている。景気は悪くなっている。
×	商店街 (代表者)	販売量の動き	・値上がりしが止まらない。なぜ値上がりするのか分からない。
×	一般小売店 [医薬品] (経営者)	来客数の動き	・当店の主な顧客は高齢層であり、インフレが進む見通しのなかでは生活防衛的な行動をとらざるを得ない。よって、来客数が大きく減少している。
×	スーパー (経営者)	お客様の様子	・中東情勢の長期化により、あらゆるものの価格が上がっている。自治体が商品券を発行しているが、プラスアルファの売上にはなっていない。
×	衣料品専門店 (経営者)	来客数の動き	・物価高の影響により来客数が減少している。また、気温が不安定で服装選びに迷い、欲しい物が定まらない様子もみられる。
×	一般レストラン (経営者)	お客様の様子	・本来は繁忙期だが、中東情勢の影響により法人客、個人客共に激減している。組合団体は時期的な動きに沿って一定の集まりがみられ、大きな変化はない。また、食材や消耗品の値上げにより、利益が大幅に減少している。

	×	観光名所（職員）	来客数の動き	・インバウンドを中心に団体旅行はほぼ変わらないが、国内の個人旅行者が明らかに少ない。個人旅行の目的が変化しているように見える。
	×	競艇場（職員）	単価の動き	・来客数に変化はないが、客単価が大幅に減少している。
	×	設計事務所（経営者）	競争相手の様子	・建築士事務所協会では、会員の退会が年間で約5%発生している。理由は業務を継続できる受注がないことや高齢化による廃業である。公共入札においても低価格での応札、最低制限価格での同札抽選など厳しい状況が続いている。そこに物価上昇や資材供給遅延なども重なり、川上にある設計業務の発注量が減少している。
	×	住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・中東情勢の影響により、客の動きが鈍化している。また、引渡しの遅延が懸念されている。
企業 動向 関連  (東北)	◎	—	—	—
	○	食料品製造業（製造担当）	受注量や販売量の動き	・ゴールデンウィークや祭り等のイベントにより人流が増え、特に土日、祝日の飲食店の集客が好調である。土産品に関しては低価格帯の商品の荷動きが良くなっている。
	○	建設業（従業員）	受注量や販売量の動き	・受注工事は相応にあり、人手を確保して案件をこなしている。
	□	農林水産業（従業者）	受注量や販売量の動き	・米の販売価格は若干下がっているが許容範囲である。ナフサ由来の原料不足の影響が懸念されるものの、現時点で景気に変化はない。
	□	金属製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・中東情勢による調達不安の影響か、やや悪い状況が続いている。
	□	電気機械器具製造業（総務担当）	取引先の様子	・商談の進み具合が依然として鈍い。
	□	建設業（従業員）	受注量や販売量の動き	・大型工事の受注がない。数か月、受注量に大きな変化はない。
	□	建設業（従業員）	受注量や販売量の動き	・好景気のまま現状維持となっている。
	□	通信業（営業担当）	取引先の様子	・取引先の景気は依然として停滞感がうかがわれ、プラスの要素は見当たらない。
	□	通信業（営業担当）	取引先の様子	・特に変化はみられない。
	□	金融業（広報担当）	取引先の様子	・県内の宿泊業、飲食業、サービス業は、インバウンドや国内旅行者数の増加により引き続き堅調に推移している。住宅着工件数は、材料・人件費高騰の影響により前年比では2～4割の減少が続いている。自動車新車販売やサービス消費は好調である。総じて県内の個人消費は堅調に推移している。
	□	広告業協会（役員）	受注量や販売量の動き	・物価高騰の影響により節約志向が高まり、消費マインドが冷えてきている状況下では、広告費を増やす企業は少ない。広告業界としては、3か月前と比べて大きな変化はない。
	□	広告代理店（経営者）	取引先の様子	・予算が大きく減っている客先はないが、中東情勢の影響により経済が不安定であるため、予算執行には慎重な傾向がみられる。
	□	公認会計士	取引先の様子	・顧客の月次、決算状況から判断している。小売業、サービス業関係はある程度の売上があり、業績が悪化している顧客は少ない。対して、製造業、建設業関係の顧客は売上が伸びず、業績の改善がみられない。全体としてはやや悪い状況が続いている。
	□	その他企業〔企画業〕（経営者）	それ以外	・小売店でゴールデンウィーク明けに来客数が減少するのは例年のことだが、今年はそれが顕著である。客単価も減少している。
	▲	農林水産業（従業者）	受注価格や販売価格の動き	・米の店頭価格が下落傾向にある。
	▲	食料品製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・販売量の前年割れが続いている。また、原材料の価格改定が頻発している。
▲	出版・印刷・関連産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・ネット印刷等によるコスト削減をしているようで、印刷の発注量が減少している。広告についても消極的な姿勢がみられる。	

	▲	電気機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・取引先から示されている先行き見通しを下回る受注量となっている。
	▲	輸送用機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・ゴールデンウィーク前後に受注の落ち込みがみられた。例年以上に動きが鈍く、積上げが良くない状況である。
	▲	建設業（従業員）	受注量や販売量の動き	・目立った受注契約がない。
	▲	輸送業（経営者）	受注量や販売量の動き	・売上は前年と比較して5%以上落ち込む見通しであり、3か月前と比較しても悪い状況である。当社の取扱品目では、輸出入や保管の取扱数量が落ち込んでいる。輸送の取扱いでは、特に関東方面行きの荷物の減少が大きく響いている。
	▲	経営コンサルタント	それ以外	・食料品の価格上昇が止まらない。
	▲	その他企業〔協同組合〕（職員）	それ以外	・石油由来製品の入手が困難となっている。原料・資材確保の見通しの不透明感から、注文を受けたくてもちゅうちょせざるを得ない状況にある。
	×	木材木製品製造業（従業員）	取引先の様子	・中東情勢の影響による資材不足や物価高騰により、受注案件の取りやめや入札案件の不調が出始めている。仕入先からの納期回答は、めどが立たないなど不透明なものが増えている。また、提示される見積書の有効期間も1か月以下に短縮された上、値上げ通知が急増しており、確認作業が追い付かない状況である。このように急激な仕入価格の上昇が続いているが、受注側への価格転嫁が追い付いておらず、利益率が著しく低下している。
	×	窯業・土石製品製造業（職員）	受注量や販売量の動き	・官需、民需共に発注工事が低調で需要が落ち込んでおり、厳しい状況である。
	×	不動産業（従業員）	受注量や販売量の動き	・新築マンションの動きは鈍化している。また、都心部の顧客が激減し、高価格帯物件の動きが止まっている。新規設備の供給が遅延しており、先行きの見通しも立っていない。
雇用 関連	◎	—	—	—
	○	—	—	—
(東北)	□	人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・4月末から5月中旬にかけては、求職者数が前年比70%程度まで減少していた。5月下旬以降は回復傾向にあるものの、引き続き様子見が必要である。
	□	学校〔専門学校〕	求人数の動き	・専門学校向けの求人数は例年並みである。
	□	その他雇用の動向を把握できる者	周辺企業の様子	・物価高や燃料費の高騰により、利益が圧迫されている企業が多い。
	▲	人材派遣会社（経営者）	周辺企業の様子	・建設資材やリフォームの企業を始め、中東情勢の影響により求人どころではなくなっている業種がある。石油由来製品を商材として扱う企業は軒並み業績が厳しくなっており、給食関係や医療関係の企業では手袋が入手できないといった話も聞く。機械メーカーは潤滑油の備蓄が8月までしかないと話すなど深刻な状況になっている。
	▲	アウトソーシング企業（経営者）	それ以外	・いろいろな物の価格が上がっているが、上昇が急激であることから、価格転嫁が困難である。
	▲	求人情報誌製作会社（経営者）	周辺企業の様子	・求人やそれ以外の広告に費用を掛けられない企業が、前年よりも多くなっている。
	▲	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・求人広告以外の一般広告の掲載も減少している。
	▲	新聞社〔求人広告〕（担当者）	雇用形態の様子	・中東情勢は依然として見通しが立たず、原油やインクなどの価格が高騰している。
	▲	職業安定所（職員）	求人数の動き	・4月の新規求人数、有効求人数は前年同月比で大きく減少している。
	▲	職業安定所（職員）	求人数の動き	・有効求職者数は増加が続いており、有効求人数は減少している。有効求人倍率は1.1倍台となり、下げ幅も大きくなっている。

	▲	職業安定所（職員）	求人数の動き	・前年同月比で4月の有効求職者数は微増となり、有効求人数は減少している。また、有効求人倍率は5か月連続で前年比マイナスが続いている。総じて弱含みで推移しており、緩やかな減速局面にある。
	▲	職業安定所（職員）	求人数の動き	・物価高騰や中東情勢と人件費上昇に伴う経営への影響から、新規雇用の余裕がない企業が少なくない。
	×	*	*	*